

たけのこ

発行者
文京学院大学
女子中学校
南部 和彦

国友賞までのみちのり

二年桃組 十一番 高 恰花

私は小学生の時から英語を勉強していました。ですから、中学でも英語の授業や英会話の授業はとても好きでした。最初に英語暗唱コンテストを知ったのは中一の後期に入ってからでした。その時は暗唱コンテストには関心もなく、やる気もありませんでした。そんな状態だったので、一年生の時はクラス予選も通過しませんでした。二年生ではクラス予選は通過しましたが、残念ながら本選に出場することができませんでした。その時は、残念とも悔しいとも思っています。

三年に進級して、少し経った頃ふと、二年生の時の暗唱のことを思い出して、だんだん悔しさがこみ上げてきました。なぜあの時、本選に出られなかったのだろう。いろいろな気持ちがかみ上げてきました。そしてこの時は決心しました。今年は暗唱コンテストで全学年のトップに立つ。国友賞を取る！と。

三年生の冬休み明け。私は「I Have a Dream」を暗唱して、クラス予選は通過することができました。しかし、自分の中では何かピンときませんでした。その原因をいろいろ考えた末、発音がいまいち良くなかった事と感情移入が足りないと思いました。本選を通るためには、この二つを完璧にしなければいけないと考え、私は姉に鍛えてもらうことにしました。私の姉は、中学ではインターナショナルスクールに在籍し、高校は海外留学をしていたので英語はネイティブと同じくらい話すことができ、現在、インターナショナルスクールで先生をしています。姉の教え方は非常に上手で、私に合った教え方をしてくれました。私はメンタルが弱いので、何事においてもできなかったらすぐにくじけてしまいます。姉はできていなくてもとにかく私を褒めてくれました。姉のおかげで、私の暗唱は完成したのです。

国友賞を目標にしてはいましたが、本当にとれるとは思っていませんでした。自分の名前が呼ばれた時、嬉しすぎて泣きそうでした。高校でもスピーチコンテストを目標に、日々努力していきたいと思っています。



修学旅行で学んだこと

二年松組 浜 風彩

今回の修学旅行は、クラスメイトとの親睦を深めることができ、とても楽しいものとなりました。さらに沖縄についての理解を深め、平和について考えるという修学旅行の目的も達せられたと思います。

私にとって今回の修学旅行で一番印象に残ったことは平和学習です。平和学習は二日間にわたって行われました。一日目は、「ひめゆり学徒隊」について学びました。元ひめゆり学徒の島袋淑子さんが実際に体験したことを話してくださいました。耳を覆いたくなるようなひめゆり学徒の方々のお仕事を聞いていて胸が苦しくなりましたが、悲惨な体験を自ら話すことの方がよりつらいだろうと思いました。戦争の恐ろしさ、何より平和の大切さについて考えさせられました。

二日目は、「チビチリガマ」の前で、よみたんガイド風の会の比嘉涼子さんのお話を聞きました。チビチリガマで起きた悲しい集団自決についてや、平和のかけがえ、沖縄の現在などを学びました。比嘉さんのお話は、私達に訴えかけているようでした。とても悲しく、悲痛な声でした。最後にチビチリガマに向かって黙祷をしたときは、戦争という悲劇が二度と起こらないこと、そしていつまでもこの平和が続くことを祈らずにはいられませんでした。

修学旅行では、楽しむだけでなく学ぶことも大切だと改めて実感できました。



「ようこそ東京へ」をやってみて

一年菊組 渥美 裕加里

私は「ようこそ東京へ」の発表をやって、前よりも英語を楽しめるようになりました。

初めてのグローバルの授業で発表する内容を決める時、私は外国人にも楽しんでもらえそうな場所はどこだろうとすごく悩みました。そこで折角なら、自分のよく知っていて大好きなことを外国人にも知ってもらえたらいいなと考え、調べた場所を「アニメイト」に決めました。

少しずつポスターを作成していき、日本語で紹介文を書く上半分が終わった後、私にとって最大の難関が立ちました。英語で書くといわれても、一体何から書けばいいのか全く分からず、時間だけが過ぎていきました。しかし、ずっと困っていると、先生に名前を呼ばれました。先生の所へ行くこと、英語の紹介文と一緒に考えてくれました。先生に手助けしてもらい、無事英文を書き上げ、本番の文女祭も失敗せずに発表することができました。

「次は留学生に今回書いたポスターのプレゼンをお願いします」とのこと聞き、留学生ということは本物の外国人だと思いき、とても驚いてしまいました。外国人に自分の英語が通じるはずがないと不安に思っていたら、すぐに本番の日が来てしまいました。とにかく今まで練習してきたことを本番で出し切りました。失敗しないか心配でしたが、間違えずに英語で発表することができました。

終わった後に先生が留学生たちに実際にいきたい所を質問しました。すると一人の留学生が「アニメイト」と言ったのが聞こえました。私は一瞬耳を疑いましたが、友達に言われてだんだん気づきました。そして、自分が話したことがちゃんと留学生に伝わったんだと実感しました。私は友達とても喜びました。伝わったということがすごく嬉しかったです。その時の気持ちは今でも鮮明に覚えています。

私は、英語が外国人に伝わった時の達成感が分かってからもっと英語に挑戦したいと思うようになりました。文女祭や留学生へのプレゼンを踏まえて、中二からのグローバルスタディーコースで頑張りたいと思います。

一年間のアドバンストサイエンスコースで学んだこと

一年栗組 石橋 未智

私が三つのコースの中から、アドバンストサイエンスコースを選んだ理由は、理科が好きでいろいろな実験をやってみたくて思ったからです。

夏休みに文女祭で発表する研究、いろいろな大きさや形の羽を使ってどの羽が一番発電するかの実験を友だちと共同で行いました。この実験をしようと思ったきっかけは、風力発電に興味を持っていたからでした。実験をして、模造紙でポスターを作成し、文女祭で発表しました。そのときは、それがまさか選ばれて、「サイエンスキャッスル」という発表の場に出られるとは思っていませんでした。だから、選ばれたときはとてもびっくりしたけれどもとてもうれしかったです。

さて、「サイエンスキャッスル」で発表するためには、実験を掘り下げ、パソコンでポスターを作らなければなりません。まず実験では、全く同じ条件の下で進めることに苦労しました。また、ポスターの作成に関しては、パソコンを使い慣れていなかったため、先輩や先生に助けってもらいながら必死に完成させました。これは私たちにとても、実験とは違った勉強になりました。限られた時間の

中にも関わらず、自分の手際が悪くて、思うように進まずとても大変でした。だから、ポスターが完成したときはホッとしました。

「サイエンスキャッスル」にはいろいろな学校が、さまざまな実験の発表をしてくれました。自分が発表したときには、いろいろな人からたくさんのアドバイスをもらうことができました。それらのアドバイスを生かして、今後の実験・研究につなげていきたいと思っています。

一年間アドバンストサイエンスコースでは、今述べたこと以外にもたくさんの実験をしてとても楽しく学べました。中二でもアドバンストサイエンスコースでたくさん学ぼうと思っています。

一年間スポーツサイエンスコースで学んで

一年栗組 石山 実侖

私はスポーツサイエンスの一年間の講座を振り返って、たくさん学べたことができたと思いました。

その中でも一番印象に残ったことは、スポーツについて考えるためにある高校の吹奏楽部の活動のDVDを見たことです。先生が授業の中で、

「スポーツとはほど遠い吹奏楽のDVDを見ます」とおっしゃいました。自分たちはいつも身体をたくさん動かしたり、大きな声を出したりする競技に取り組んでいきます。例えば、サッカーやバレーボールです。だから、最初はスポーツと吹奏楽は全く関係がないと思っていましたが、予想以上にいろいろな発見がありました。

私は最初に、自分が取り組んでいるバレーボール部と吹奏楽部との共通している点と違っている点を見つけてみました。まず、共通している点は、練習量が多いことや予選を勝ち抜いて全国大会へ出場することでした。また、私たちがプレー中、先生に怒られるように、吹奏楽部の人たちも演奏をしている時、少しでもミスをするとも怒られていました。でも、本番では全員が努力してきた成果を發揮し、心を一つにして一生懸命演奏していました。

そして、違っている点は、人数やオーデイションがあるということでした。吹奏楽部の人たちはそのオーデイションで合格して本番で勝つために毎日練習を欠かさずしていたのが印象的でした。

今までスポーツと吹奏楽とは、正直関係がないものだと思っていました。しかし、DVDを見終わって、共通点があったことがわかり、さらに気づいたことがありました。それは、「絶対に勝たない」という気持ちが同じだということでした。その気持ちが、吹奏楽部の人たちは普段の練習の中で新たな工夫を試みて練習していることで表れているように感じました。だから、私たちが普段の練習の中で、「絶対に勝たない！」という気持ちを出し、競技力を向上させていきたいと思います。

今後スポーツサイエンスコースで学んだことを部活に取り入れていき、競技力を向上させたいと思っています。

